

原子力安全・保安院による公募研究です！

C³プロジェクトの正式名称は、「原子力技術リスクC³研究：社会との対話と協働のための社会実験」です。これは、平成14年度に設けられた経済産業省原子力安全・保安院の提案公募型研究制度で採用されたプロジェクトで、原子力安全・保安院からの委託費で運営されています。

プロジェクトに関わっている人のご紹介



谷口 武俊（研究代表者）
電力中央研究所
上席研究員

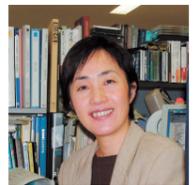


竹村 和久
早稲田大学 教授



中村 博文
核燃料サイクル開発機構
リスクコミュニケーション研究班

研究班は全員
協力しています



土屋 智子
電力中央研究所
主任研究員



小杉 素子
電力中央研究所
主任研究員

この他に
茨城大学の帯刀治教授
東海村役場の小野寺節雄
が共同研究者として関わっています。

シーキューブ



2003年6月 創刊号

はじめまして シーキューブです

東海村のみなさん はじめまして！

私たちは、昨年12月から、東海村で原子力や環境問題のリスクコミュニケーションを行うプロジェクトを始めました。このニュースレターは、私たちの活動をより多くの方々に知っていただきたいと考え、4月から発行を始めたものです。

私たちのプロジェクトの目的は、「地域社会との対話と協働」です。「地域社会」という意味のCommunity（コミュニティ）、「対話」を意味するCommunication（コミュニケーション）、「協働」のCollaboration（コラボレーション）の頭文字の3つのCから、「C³プロジェクト」と名づけ、「シーキューブ」と呼んでいます。

目薬やケーキ屋にも同じ名前がありますが、ぜひぜひ、東海村の「シーキューブ」を覚えてください！

6月の活動予定

○印がオープンしている日です。

日	月	火	水	木	金	土
閉	閉	10~17時	10~17時	10~17時	不定期	不定期
1	2	3 ○	4 ○12時~	5 ○	6	7
8	9	10 ○	11 ○12時~	12 ○	13	14
15	16	17 ○	18 ○	19 ○	20	21
22	23	24 ○	25 ○	26 ○	27	28
29	30					

金・土曜のオープン時間は不定期です。予定は予告なく変更になる場合があります。



原子力技術リスクC³プロジェクト事務局
〒319-1111 東海村舟石川821-52
東海村合同庁舎（1号館）2階
電話：029-287-1665
携帯：090-4674-0117
ホームページ：http://tokaic3.fc2web.com

東海村合同庁舎2階に事務局を開設しました。
右の写真は2月に事務所開きをしたときの様子です。
皆さんも遊びにきてみてください！
事務所の開設日時は不定期です。今月の開設日時は最後のページをごらんください。



こんなことをしています

C³プロジェクトでは、昨年度、次のような活動をしました。

1. リスクコミュニケーションの社会実験の準備

①プロジェクトに参加して下さる住民の方を公募しました！

1月から3月にかけて「東海村の環境と原子力安全について提言する会」への参加者を募集しました。応募していただいた皆さんと一っしょに、東海村のリスクについて議論して提言していきます。現在、7名の方が応募してくださっています。

皆さんもぜひご参加ください。いつでも応募を受け付けています。東海村以外の方もご参加いただけます。応募は、合同庁舎、役場、コミュニティセンターなどに設置してあるチラシをお使いください。

お問い合わせは、事務局携帯電話090-4674-0117まで。

②リスク情報を読み解くための“市民のための手引き”を用意しました！

世の中にはさまざまなリスク情報があふれています。発がん性物質やダイオキシンなど“危険”だらけの世の中のように思えますが、実際のリスクはどの程度なのでしょう？この手引書は、皆さんがリスク情報を理解し、判断するときに役立てていただきたい心得をまとめたものです。事務局にて無料で提供しています。

③事務局を開設し、ホームページをつくりました！

リスクに関するさまざまな資料が閲覧でき、議論もできる事務局をオープンしました。また、ホームページもつくり、プロジェクトに関するさまざまな情報を提供しています。

<http://tokaic3.fc2web.com>

2. 「原子力と環境リスクに関する意識調査」の実施

リスクコミュニケーションで第一に重要なことは、皆さんがどんなリスクに関心をもっているか、を知ることです。また、皆さんが話しやすい議論の方法を考えることも重要です。そこで、東海村と東海村に隣接する地域の方々を対象とするアンケート調査を1月～2月にかけて実施しました。

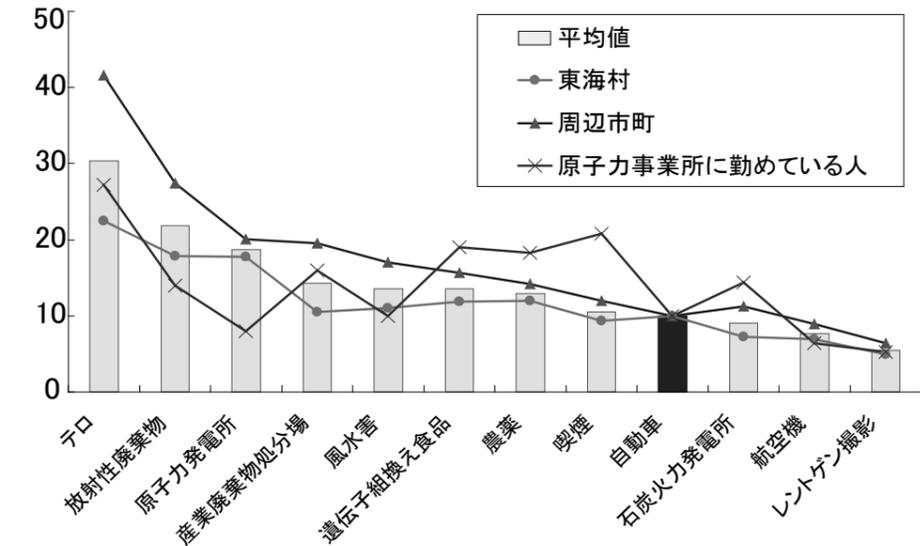
1197名（回収率80%）の方から回答をいただき、その結果を分析しています。

調査結果の要約は、事務局にて無料で提供しています。

また、詳しい分析結果をお知りになりたい方は、原子力安全・保安院に提出した報告書を事務局内で閲覧、もしくはホームページからダウンロードすることができます。

調査結果のご紹介

いろいろな技術や行為などの危険度評価
（自動車の危険度を10とした場合）



この図は、自動車の危険度を10とした場合に、テロや原子力発電所などの危険度をお答えいただいた結果です。周辺市町の方は、東海村の方より、すべてにおいて危険度を高く考えていらっしゃいます。また、原子力事業所に勤めている方のお答えは、かなり違っていることがわかりました。

リスクの感じ方は人それぞれ

上の図のような違いが生まれるのはなぜでしょうか？原子力事業所に勤めている人が特に違っていることから、知識や経験の差が考えられます。しかし、知識や経験以外に、私たちは、次のような特徴をもったものを特に「怖い」と感じる傾向があるとされています。

- ・非自発的にさらされる
（自ら選んだり、進んで行ったりすることではないもの）
- ・不公平に分配されている
（リスクを負う人と便益を受ける人が違う場合など）
- ・個人的な予防行動では避けられない
- ・よく知らないものや新しいもの
- ・人工的なもの
- ・子供や将来世代に影響を与える
- ・被害者がわかる
- ・科学的に解明されていない
- ・信頼できる複数の情報源から矛盾した情報が伝えられる

例えば、原子力は「怖い」と感じる特徴をたくさんもった技術なので、私たちが自動車よりも危険だと感じるのは当たり前のことなのです。

吉川肇子「リスクと付き合う」有斐閣選書より